

令和3年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

宜野湾市		事業名	計画期間	事業概要		R3成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			R3活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
1	①	宜野湾市西海岸エリア活性化事業	R2 ~ R3	沖縄西海岸の中心に位置するアクセス性の高い立地を生かして、各種イベントを開催し、観光産業の振興を図る。	「琉球海炎祭」、「はごろも祭り」の開催を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>琉球海炎祭・・・来場者数1.6万人(うち県外8千人、海外2千人)</li> <li>はごろも祭り・・・来場者数16.5万人</li> <li>カチャーシー大会参加者個人35人、25団体</li> <li>海浜公園周辺宿泊施設宿泊者数3%増(H30年度実績:279,874人→目標:288,500人)</li> </ul>	<p>【R4成果目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>琉球海炎祭:17,000人</li> <li>はごろも祭り:173,000人</li> <li>周辺宿泊施設宿泊者数:294,000人</li> </ul> <p>【今後のスケジュール】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>琉球海炎祭やはごろも祭り、産業祭り等を中心として、本市海浜公園エリアでのイベントの実施、開催支援、誘致等を促進していく。</li> <li>年間を通して様々なイベントを実施することで、多くの観光客を誘致し、周辺宿泊施設の利用者数の増加を図る。</li> </ul>	<p>【R4成果目標設定の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●琉球海炎祭、はごろも祭り等各イベントの来場者数をR3年度比較で約5%増を目標とする。</li> <li>・琉球海炎祭:16,000人→17,000人</li> <li>・はごろも祭り:165,000人→173,000人</li> </ul> <p>●年間を通して様々なイベントを実施することで、多くの観光客を誘致し、周辺宿泊施設宿泊者数を増加を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺宿泊施設宿泊者数H30年度比較で約5%増を目指す。(H30年度実績:279,874人→目標:294,000人)</li> </ul>
1	②	企画展開催事業	H24 ~ R3	市民や観光客に宜野湾市への理解を深めてもらうため、普天間飛行場をとりまく歴史を中心に企画展を開催する。	企画展を開催:2本	企画展1本あたりの平均入館者数:1,470人以上	<p>【今後のスケジュール】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間2本以上企画展を開催する。</li> </ul>	<p>【R3成果目標設定の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去の実績を参考に設定した。</li> <li>※コロナの影響を考えて前年度ベース。</li> </ul>
1	③	文化財説明板・標識設置事業	H24 ~ R3	観光振興及び文化教育に資するため、市指定・登録文化財の所在地に標識や説明板を設置するとともに、自治会事務所等に「地域文化財案内板(ふるさと案内板)」を設置する。	指定・登録文化財に文化財説明板と標識を作成・設置する。 地域文化財案内板を自治会事務所等に設置する。	地域文化財案内板:5件 文化財標識・説明板設置件数:3件	<p>【R4成果目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域文化財を活用した学習会等への参加人数 200人以上</li> </ul> <p>【今後のスケジュール】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度で地域文化財案内板および文化財説明板の必要箇所が設置完了予定。</li> <li>宜野湾間切誕生時からある地域に概ね設置完了することから、気軽に市内外の方々が市の自然・歴史・文化に対する知識と理解が深められる。</li> </ul>	<p>【R4成果目標設定の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>類似の学習会(市文化課主催の文化財教室)等を参考に設定した。</li> </ul> <p>【未設置の地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全域が基地内にある「安仁屋区」については、返還後に設置を検討した。</li> </ul>
1	④	横浜DeNAベイスターズグリーンコミュニティー事業	H25 ~ R3	プロ野球のキャンプは、温かい沖縄を全国にアピールする絶好の機会であり、横浜DeNAベイスターズのキャンプ地である宜野湾海浜公園を南国沖縄の花で埋め尽くし、美ら島沖縄を全国へ発信する。	植樹する花の苗(10,000鉢)	来場者へのアンケート調査による満足度調査80%以上	<p>【今後のスケジュール】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プロ野球キャンプ地としての魅力的な景観形成を図る。</li> </ul>	<p>【R3成果目標設定の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大多数の来場者にとって魅力的な景観形成が図られていると考えられる数値として設定した。また、本事業のあり方について、アンケートにより検証する。</li> </ul>

R3活動目標(指標):令和3年度における当該事業の主な取組や事業量をあらわしたもの。  
 R3成果目標(指標):令和3年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

## 令和3年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

宜野湾市		事業名	計画期間	事業概要		R3成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			R3活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
1	⑤	宜野湾海浜公園施設等再編整備事業	H30～R3	海浜という立地を活かした公園としての魅力の向上及び誘客の促進を図るため、文化スポーツ施設を中心に宜野湾海浜公園及びその周辺施設の整備を実施する。	再編整備工事(倉庫・投球練習場)の実施	再編整備工事(倉庫・投球練習場)の完了	【R4成果目標】 施設利用者数 611,000人 【今後のスケジュール】 R3:再編整備工事	【R4成果目標設定の考え方】 過去の実績を勘案して設定した。
1	⑥	嘉数高台公園等施設整備事業	H30～R3	戦跡等もあり観光地としての側面もある嘉数高台公園において、来園者の利便性向上を図るため、公園施設の整備を実施する。	再編整備工事(工事(2期)、(植栽)、4広場側トイレ・東屋(4棟の内2棟)の実施	再編整備工事(工事(2期)、(植栽)、4広場側トイレ・東屋(4棟の内2棟)の完了	【R5成果目標】 戦跡等を活用した観光地としての利便性の向上が図られたか(80%以上)を含め、観光客や市民等へのアンケートにより、本事業のあり方について検証する。 【今後のスケジュール】 R4:再編整備工事(3期・東屋)	【R5成果目標設定の考え方】 対象者のうち大多数が利便性の向上が図られたと考えられる値として設定した。また、本事業のあり方について、アンケートにより検証する。
1	⑦	プロ野球キャンプ野球場施設整備事業	H30～R3	野球場施設の機能拡張整備を実施し、継続して合宿を受け入れる体制を確保する。	内野グラウンド機能拡張設計及び工事の実施	内野グラウンド機能拡張設計及び工事の完了	【R4成果目標】 ・プロ野球キャンプ実施件数 1件 ・スポーツ合宿誘致件数 3件	【R4成果目標の考え方】 過去の実績を参考に設定した。
1	⑧	博物館機能強化事業	H26～R3	観光振興及び生涯学習に資することを目的に、文化発信拠点である市立博物館の案内板充実など機能強化を実施する。	館内施設整備(企画展示室改修工事)	館内施設整備(企画展示室改修工事)の完了	【今後のスケジュール】 整備後(R4) ・年間利用者数 24,573人	過去の実績を参考に設定 【実績】 H27:15,461人 H28:10,713人 H29:22,972人 【目標】 過去3年間の平均値(16,382人)を基準値とし、そこから1.5倍向上することを目指して目標値を設定。
1	⑨	ぎのわん美ら海クリーン活動支援事業	R3	・市観光振興協会を中心としたダイビング、マリン事業者等の組織体への補助金を支出し、活動を支援する。 ・サンゴの植樹、清掃活動を当てて海の環境を保全しながら、観光コンテンツの開発、観光プロモーションを行う。	ぎのわんマリン協会(仮称)の支援	・サンゴの植樹 ・海中の清掃活動 ・本市の海をPR	【R4成果目標】 観光客の誘客を図る。→ダイビング観光客:200人(R4目標値) 【今後のスケジュール】 ・サンゴの植樹、清掃活動等を継続して実施する。 ・本市の美ら海をPRし、観光コンテンツとして確立する。	【令和4年度以降の目標値】 ・ダイビング観光客の増: ⇒107人(R2実績)→200人(R4目標値)

R3活動目標(指標):令和3年度における当該事業の主な取組や事業量をあらわしたものを記載している。

R3成果目標(指標):令和3年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを記載している。なお成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

令和3年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

宜野湾市		事業名	計画期間	事業概要		R3成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			R3活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
2	①	スクールソーシャルワーカー活用事業	H24～R3	スクールソーシャルワーカー等を配置し、学校及び関係機関と連携しながら不登校や問題行動の未然防止、早期対応、改善に取り組む。	小学校9校に各1名 中学校4校に各1名の計13名の学校配置と、センター内にコーディネーター4名及びアドバイザー1名を配置、学校と連携し寄り添い支援や関係機関につなぐ支援活動を実施	スクールソーシャルワーカー等の支援による不登校児童生徒学校復帰率（「学校復帰、学級復帰、未然防止」に占める「学校復帰」の割合）H29～R1までの直近3カ年の平均値 26.9%	【今後のスケジュール】引き続きスクールソーシャルワーカーを配置し、学校や関係機関と連携し、児童生徒や保護者の支援に努める。	【R3成果目標設定の考え方】スクールソーシャルワーカー等の支援による不登校児童生徒学校復帰率について、H29～R1までの直近3カ年の平均値で設定した。
2	②	適応指導教室事業	H24～R3	不登校児童生徒の適応指導に関する調査研究、相談を実施し、児童生徒の居場所づくりとして、宿泊・自然体験学習及び他校との交流体験活動を実施するなど不登校児童生徒の学校適応を促進する。	適応指導教室支援児童生徒数：8名	適応指導教室に通級している児童生徒のうち学校復帰できた児童生徒の率：10%	【今後のスケジュール】他の適応指導教室との宿泊学習での交流や講師を招いての体験交流会等を行い、集団生活に適応するための意識向上やコミュニケーション能力向上を図るための支援を行う。	【R3成果目標設定の考え方】過去の実績の平均値(8%)を基準値とし、R2年度の児童生徒の実態をふまえたうえで設定した。
2	③	児童生徒等相談事業	H24～R3	臨床心理士、青少年教育相談指導員を配置し、相談等支援をとおして、不登校等の課題の改善に取り組む。	臨床心理士2名と青少年教育相談指導員3名を配置 教育相談等を実施	はごろも学習センターに通所する児童生徒等のうち、主訴「不登校」とする児童生徒のうち、令和元年度並みに、学校への登校数が改善した件数 21件	【今後のスケジュール】配置された臨床心理士と青少年教育相談指導員が、スクールソーシャルワーカーと連携し困り感のある子どもの相談対応をし、問題行動の未然防止や適応指導教室との連携により不登校児童生徒の学校復帰につなげる。	【R3成果目標設定の考え方】相談受付件数と改善件数から過去3年平均での算出
2	④	非行防止等巡回活動事業	H24～R3	青少年の健全育成に寄与するため、街頭指導員を配置して夜間街頭指導等を実施する。また、実施にあたっては、地域や学校、関係機関と連携し、各所から寄せられた情報を活かしつつ、季節に合わせて巡回時間を調整するなどの工夫を行い、巡回指導を強化することで、青少年の深夜はいかい、非行などの問題行動の未然防止、早期発見、事件・事故の抑止につなげる。	・4中校区から各4名の街頭指導員を計16名委嘱し、4グループを編成。4名1グループが週3回(平日21時～23時)(金・土曜日21時半～23時半)の公園を中心に巡回し夜間街頭指導等を実施。 ・現在公園を中心としたポイントに加え、繁華街や学校周辺などの必要箇所の巡回にも対応し、深夜はいかい等から不登校へと進む問題行動の未然防止に努める。	夜間街頭指導件数：495件	【今後のスケジュール】地域や学校からの情報を活かし、季節に見合う巡回指導を強化することで、青少年の深夜はいかい、非行防止や事件事故の抑止につなげる。	【R3成果目標設定の考え方】H30年度の指導件数が前年度比60%の大幅な増となっているため、H27～29年度の平均の減少率を設定した。

R3活動目標(指標)：令和3年度における当該事業の主な取組や事業量をあらわしたものの。  
 R3成果目標(指標)：令和3年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

## 令和3年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

宜野湾市		事業名	計画期間	事業概要		R3成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			R3活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
2	⑤	学習支援員活用事業	H24 ～ R3	学習に遅れをとっている児童が自ら学ぶ意欲を高め、基本的な学習内容を理解するため、授業内容をきめ細かにサポートする学習支援員を配置し、個々の学力に応じた学習指導を行うことで、学力の向上を図る。	小、中学校において学力の定着に遅れがちな児童生徒に対して、個に応じた学習指導を行うことで、基礎的・基本的な知識技能の習得を図り、学習意欲を高め、学力の向上を図る。	沖縄県学力到達度調査において、県と本市との平均正答率の差 ・小学校 算数：+2.0ポイント以上  ・中学校 数学：-6ポイント以上	【今後のスケジュール】 今後も、小、中学校において学力の定着に遅れがちな児童生徒に対して、個に応じた学習指導を行うことで、基礎的・基本的な知識技能の習得を図り、学習意欲を高め、学力の向上を図る。	【R3成果目標設定の考え方】 過去の実績を勘案して設定した。
2	⑥	派遣費補助金交付事業	H24 ～ R3	児童生徒の文化及びスポーツ活動を奨励し、県外の人との競争や交流の機会を増やすため、学校教育の一環としての県外派遣を支援する。	県外へ派遣される団体への支援を実施  支援団体数：13団体 (スポーツ活動団体：9団体、文化活動団体：4団体)	対象児童生徒の保護者へのアンケートの結果「子どもの視野が広がったと思う」：80%以上	【今後のスケジュール】 R3の支援団体数見込は、13団体	【R3成果目標の考え方】 アンケート結果「視野が広がったと思う」80%は、大多数の児童生徒の視野が広がったと考えられる値として設定した。
2	⑦	スポーツ少年団派遣費補助事業	H25 ～ R3	スポーツ活動による児童生徒の健全育成及び県外の人との交流の機会を増やすため、一定の基準を満たすスポーツ少年団に加盟登録している団体又は個人の県外派遣を支援する。	県外へ派遣された団体等への支援を実施する。 支援団体数：65団体	対象児童生徒の視野が広がったか(80%以上)を含め、児童生徒の保護者に対してアンケートを取り、本事業の在り方を検証する。	【今後のスケジュール】 引き続きスポーツ少年団等への支援を実施する。	【R3成果目標設定の考え方】 大多数の児童生徒の視野が広がったと考えられる値として設定した。また、本事業の在り方について、アンケートにより検証する。
2	⑧	特別支援教育支援員派遣事業	H28 ～ R3	宜野湾市立の幼小中学校における、特別な配慮を要する幼児・児童・生徒の支援者として特別支援教育支援員を派遣し、学校生活や学習上の困難の改善を図る。	特別支援教育支援員派遣 (幼稚園：10人、小学校47人、中学校20人)	特別支援教育支援員を宜野湾市立幼小中学校へ77名派遣する。特別支援教育支援員派遣事業に対する満足度について、アンケートを実施。 成果目標としては、大多数が満足していると考えられる数値として「95%以上」と設定。	【今後のスケジュール】 今後も宜野湾市市立の幼小中学校における、特別な配慮を要する幼児・児童・生徒の支援として特別支援教育支援員を派遣し、学校生活や学習上の困難の改善を図る。	【R3成果目標設定の考え方】 満足度を検証するアンケートであるため、数値設定は、大部分が満足していると考えられる値を設定。
3	①	文化財保存整備事業	H24 ～ R3	文化財を適切に保存し、市民、観光客等に公開活用できるよう、文化財の石積修復や安全対策、修景などの整備を行う。	本部御殿墓の保存整備工事を行う。	①本部御殿墓の基本実施設計：1件	【R4成果目標】 ・地域文化財を活用した学習会等への参加人数 200人以上  【今後のスケジュール】 重要な文化財を景観・安全に配慮した保存整備を行い、文化教育、観光振興につなげる。  本部御殿墓 R3年度：工事完了 R4年度：公開	【R4成果目標設定の考え方】 類似の学習会(市文化課主催の文化財教室)等を参考に設定した。

R3活動目標(指標)：令和3年度における当該事業の主な取組や事業量をあらわしたものを。

R3成果目標(指標)：令和3年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを。なお成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

令和3年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

宜野湾市		事業名	計画期間	事業概要		R3成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			R3活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
3	②	歴史公文書等整理・活用事業	H24～R3	歴史的価値を有する宜野湾市(村)の公文書等を整理し、今後の市民・利用者の資料要求に迅速に対応することを目的に、公文書等の保存及びデータベースへの登録を行い、公開基準を基に順次公開を行う。	・歴史的価値を有する公文書等の整理 ・公開基準に基づいた公文書の順次公開	・アンケートを実施し、市の歴史や文化への理解が深まった方の割合が80%以上とする。	【今後のスケジュール】 公文書と写真整理を継続して整理を完遂させ、公開できる簿冊等を増やすとともに、歴史公文書の順次公開をすすめていく。	【R3成果目標設定の考え方】 対象者のうち大多数が、市の歴史や文化への理解が深まったと考えられる値として設定した。また、本事業のあり方について、アンケートにより検証する。
4	①	平和市民啓発事業	H24～R3	【平和大使育成事業】 戦争の悲惨さ、平和の大切さ及び命の尊さを次代へ継承する人材を育成するため、 <u>市立中学生8名と青年層1名を平和大使に認定し、県内研修を行う。</u>  【平和祈念事業】 また、沖縄戦から76年余が経過する中で、改めて戦争の悲惨さ、平和の大切さ及び命の尊さを市民に啓発するため、平和大使を活用したイベントを実施する。	【平和大使育成事業】 県内研修及び県外研修に派遣する人数 ・市内中学生：8名、市内青年層：1名 ・フォローアップ研修：1回  【平和祈念事業】 平和大使を活用した啓発イベント実施回 ・5回	本事業に参加した生徒や市民からアンケートを徴収し (1)「平和に対する理解が深まった。」 (2)「この事業で学んだことを誰かに伝えたいと思う。」と回答する割合：80%以上	市立中学生8名及び市内青年層1名に平和大使に認定証を交付し、県内研修及び県外研修に派遣する。派遣後は、平和大使として市が実施する平和に関する事業に積極的に関わっていただき、市民に戦争の悲惨さや平和の大切を啓発していただく。また、そのためのフォローアップ研修も <u>行っていく。</u>	【R3成果目標設定の考え方】 啓発事業のため、どのように感じたのかだけでなく、アウトプットについてもアンケート項目に入れ、本事業の効果的な在り方について検証を行う。
4	②	小学校英語教育課程特例校事業	H24～R3	外国人英語指導助手(ALT)及び日本人英語教師(JTE)を小学校に派遣し、児童の学力に応じた個々の学習指導を行うことで、学力(英語)の向上を図る。	英語教育を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的に英語によるコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を目指し、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、英語によるコミュニケーション能力の素地を養うとともに、学習に対する意欲を高め学力の向上を図る。	①小学1～4年生 英語による質問4項目に対する平均正答率 85%以上  ②小学5～6年生 小学校児童英語検定において、全国と本市との平均正答率の差 +1.7ポイント以上	【今後のスケジュール】 今後も英語によるコミュニケーション能力の素地を養うとともに、学習に対する意欲を高め学力の向上を図る。	【R3成果目標設定の考え方】 過去の実績を勘案して設定した。
4	③	外国人教師招致事業	H24～R3	外国人英語指導助手(ALT)を中学校に派遣し、生徒の学力に応じた個々の学習指導を行うことで、学力(英語)の向上を図る。	本市では、平成15年度に国の英語教育特区の認定を受け、平成16年度以降、小学校に「英語科」を新設、小中一貫した英語教育を行っている。効果的・継続的な指導のもと、児童生徒の国際化時代に必要な外国人との英語による実践的コミュニケーション能力の基礎を育むとともに、学習に対する意欲を高め学力の向上を図る。	沖縄県学力到達度調査において、県と本市との平均正答率の差  ・中学校 英語：+1.5ポイント以上	【今後のスケジュール】 今後も英語による実践的コミュニケーション能力の基礎を育むとともに、学習に対する意欲を高め学力の向上を図る。	【R3成果目標設定の考え方】 過去の実績を勘案して設定した。

R3活動目標(指標)：令和3年度における当該事業の主な取組や事業量をあらわしたもの。  
R3成果目標(指標)：令和3年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

令和3年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

宜野湾市		事業名	計画期間	事業概要		R3成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			R3活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
4	④	学校ICT活用指導支援事業	H24 ～ R3	ICT支援員4名を配置し、児童生徒がICTを活用することで興味、関心を高めるなどの教育効果を図ることができる授業の支援、教職員向けの校内研修（ICT活用研修）の実施、ICT機器整備に関する施策・事業計画の作成を行う。	ICT活用主任担当員1名、ICT活用補助員3名配置 情報夏期講習会13回 情報教育研究会検証授業4回	① 教員にアンケート調査を実施し、授業にICTを活用して指導できる割合を80%以上を目標とする。 ② ICT機器活用により、授業が分かりやすかったと答えた児童生徒の割合80%以上	【今後のスケジュール】 教師用アンケート「授業にICTを活用して指導できる」割合を求め、積極的にICT機器を活用した授業の展開を促進させる。	【R3成果目標設定の考え方】 80%以上の設定については、対象者のうち概ね肯定的であるといえる数値として設定した。
4	⑤	ICT機器活用推進事業	H24 ～ R3	生徒の情報活用能力の育成環境を整備するため、中学校に指導者用デジタル教科書を整備する。	指導者用デジタル教科書：国語、社会、数学、理科、英語	① 教員にアンケート調査を実施し、授業にICT機器とデジタル教科書を活用して指導できる率：80%以上 ② 生徒にアンケート調査を実施し、ICT機器とデジタル教科書の活用により、授業が分かりやすかったと答えた児童の割合：80%以上	【今後のスケジュール】 教員を対象にした研修会を実施し、ICT機器とデジタル教科書を活用した情報教育授業を推進する。	【R3成果目標設定の考え方】 80%以上の設定については、対象者のうち概ね肯定的であるといえる数値として設定した。
5	①	市民防災事業	H27 ～ R3	宜野湾市地域防災計画に基づき食糧、飲料水や自主防災組織の強化を行い、適切な被災者支援を行う。国土強靱化地域計画等を策定することにより、自然環境と共生しながら災害リスクを軽減する宜野湾市に適した減災地域社会を形成する。	①保存食及び保存水の備蓄 ・R2年度備蓄食糧購入5,500食 ・R2年度保存水購入(500ml)1,104本 ②自主防災組織への資機材整備完了(7団体) ③国土強靱化地域計画等の策定	①保存食及び保存水の備蓄 ・R3年度備蓄食糧 備蓄率99% ・R3年度保存水 備蓄率10% ②自主防災組織への資機材整備完了(23団体) ③国土強靱化地域計画の策定完了	【R4成果目標】 毎年、整備した資機材を活用した避難訓練を年に3回以上は実施することを目標とする。	【R4成果目標設定の考え方】 補助金で購入した防災資機材を活用した避難訓練を実施・検証を年に3回(①土砂災害・全国統一防災訓練、②沖縄県広域地震・津波避難訓練、③宜野湾市西海岸地区地震・津波避難訓練)行う。
5	②	防災情報システム整備事業	H29 ～ R3	大規模災害時に備え、市内に高速無線LANネットワークを構築し、市役所と避難所間の連携や、沿岸監視カメラの設置などの総合的な防災情報システムの整備を行う。	防災情報システムの整備の実施	防災情報システムの構築・整備の完了	【R4成果目標】 毎年、整備した防災情報システムを活用した避難訓練を年に3回以上は実施することを目標とする。	【R4成果目標設定の考え方】 防災情報システムを活用した避難訓練を年3回(①土砂災害・全国統一防災訓練、②沖縄県広域地震・津波避難訓練、③宜野湾市西海岸地区地震・津波避難訓練)実施・検証を行う。

R3活動目標(指標)：令和3年度における当該事業の主な取組や事業量をあらわしたもの。  
R3成果目標(指標)：令和3年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

令和3年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

宜野湾市		事業名	計画期間	事業概要		R3成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			R3活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
6	①	普天間飛行場跡地利用計画策定事業(地権者意向調査)	H24～R3	普天間飛行場の跡地利用推進のため、関係地権者や市民の合意形成に向け、情報提供や意向把握等の調査を行う。また、市民によって構成される「NBミーティング」や若手地権者等によって構成される「若手の会」の活動を支援し、合意形成についての取り組みを行う。	市民向けの意向醸成イベント等・地権者向けの意見交換会の実施	市民向けの意向醸成イベント ①来場者数:230人  地権者向けの意見交換会 ②参加者:80人	【今後のスケジュール】 今後も普天間飛行場の跡地利用計画の意向醸成・合意形成の推進を図るため、若手の会及びNBミーティングの活動を支援する。	【R3成果目標設定の考え方】 過去の実績を勘案して設定した。
6	②	普天間飛行場跡地利用計画策定事業(共同調査)	H24～R3	普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けて、跡地利用の骨格に係る分野別計画の検討及び市民・県民・地権者との合意形成、情報発信等を実施する。また、普天間飛行場跡地利用計画検討委員会を開催し、「第2回全体計画の中間取りまとめ」を作成する。	「第2回全体計画の中間取りまとめ」作成	「第2回全体計画の中間取りまとめ」の作成に向けた検討調査を行い調査内容報告書の作成	【R4成果目標】 跡地利用計画(素案)策定後、当該跡地利用計画に対する市民、県民や地権者等の「肯定的な評価」80%以上  【計画策定の進捗スケジュール】 R1 配置方針・配置方針図の更新 R2 「第2回全体計画の中間取りまとめ」作成へ向けた検討 R3 「第2回全体計画の中間取りまとめ」作成	【R4成果目標設定の考え方】 跡地利用の具体的な内容やスケジュール等が定まっていないため、計画策定後、アンケートにより本事業の在り方を検証する。 大多数から肯定的な評価を得ていると考えられる数値として「80%以上」と設定した。
7	①	被覆資材等導入推進補助事業	H27～R3	本市農業振興を図る為、防風対策施設の設置及び被覆資材等導入にかかる経費に対する支援を行う。	被覆資材等導入にかかる経費に対して支援し、導入面積率を上げる事で、安定的な農業生産活動を推進する。	・被覆資材等を導入したことによる生産上昇率5%	【R4成果目標】 被覆資材等を導入したことによる生産上昇率5%  【今後のスケジュール】 台風等の気象災害や害虫による農作物被害を軽減する為、被覆資材等導入にかかる経費に対して支援し、導入面積率を上げる事で、安定的な農業生産活動を推進する。	【R4成果目標設定の考え方】 類似事業を参考に設定した。
8	①	地域キャリア教育支援事業	H30～R3	地域の企業、学校、保護者等が連携した連携協議会を開催、子どもたちが抱える課題の共有、解決策の検討をし、市内小中学校で職業体験プログラムを実施することで、児童生徒の就業意識の向上を図る。	・宜野湾市みらいづくり連携協議会の開催(2回) ・市内小中学校全校での職業体験プログラムの実施 ・中学生の職場体験事業所の開拓支援 ・保護者向けキャリア教育講演会の拡大	就業意識の肯定的変化(80%以上)を含め、児童生徒へのアンケートにより、本事業のあり方について検証を行う。	【今後のスケジュール】 地域ぐるみでの子どもたちのキャリア教育の取り組みが充実したものになるよう、連携協議会の活性化を図っていく。	【R3成果目標設定の考え方】 大多数の児童生徒の意識に肯定的な変化が生じたと考えられる値として設定した。また、本事業のあり方について、アンケートにより検証する。

R3活動目標(指標):令和3年度における当該事業の主な取組や事業量をあらわしたもの。  
R3成果目標(指標):令和3年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

令和3年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

宜野湾市		事業名	計画期間	事業概要		R3成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			R3活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
9	① 市民会館機能強化事業	H30 ～ R3	建設から37年以上が経過し施設の老朽化が進んでいる現在の設備等を改修し、市民がより利用しやすい施設として機能向上を図り、市民が質の高い文化芸術公演に触れる機会や文化活動を行う場の確保を図るため、宜野湾市民会館の整備を実施する。	市民が質の高い文化芸術公演に触れる機会や文化芸術活動を行う場の確保を図る。	①舞台機構改修工事 ②車いす専用駐車場等整備工事	【R4成果目標】 ・施設利用者数: 24,619人 ・年間公演回数: 34回  【今後のスケジュール】 R4 ①空調設備改修【設計】 ②中央監視盤改修【設計】 ③防災盤改修【設計】	【施設利用者数】 施設利用者数: 24,619人 H30の利用者実績(月平均)×(7ヶ月開館期間)×(0.8)  理由⇒これまでは過去3年の平均を設定していた。R1年、2年と改修工事のため、年間通して開館していないこととコロナ禍を考慮し、0.8を調整率として計算  (公演回数) 施設の強化による利便性の向上により、イベント回数の増加が見込まれるため、後年度に公演回数等の数値を成果目標として設定する。  R3年度目標公演数: 34回 H30の利用者実績(月平均)×(7ヶ月開館期間)×0.8調整率	

R3活動目標(指標): 令和3年度における当該事業の主な取組や事業量をあらわしたものの。  
R3成果目標(指標): 令和3年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。